

青山財産 Report

2026 Winter Vol.35

青山財産
Aoyama Zaisan Networks

新年を迎えたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。私たちAZNグループは、お客様の「こうありたい」という想いの実現に向けて、お客様との対話を重ねながら最適な選択をしていただけるように努めてまいります。変化の多い時代だからこそ、安心をお届けし、未来への一歩を支える存在であります。皆様の幸せに寄り添い続ける一年にしてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長 蓮見正純

Topics

Special Feature

「見えない壁」とは?
相続・事業承継を難解にする



相続・事業承継を難解にする 「見えない壁」とは？

不動産賃貸業や会社の業績は順調。家族との関係も悪くない。資産家として、経営者として、やるべきことはすべてやってきた——。そう自負されている方も多いと思います。一方、顧問税理士からは、「そろそろ承継の準備を」と促され、いつかはやらなければならないと理解はしていても、「まだ先のこと」「うちは揉めるような家族ではない」と問題を先送りにしている方もいるでしょう。その背景には、多くの資産家・経営者の方に共通した、いくつかの「見えない壁」が存在します。ひとつは、相続・事業承継というテーマが自らの「老い」や「死」を連想させてしまうこと。もうひとつは、相続税、遺言、株式の評価など、問題があまりにも専門的で複雑すぎること。そして、最も根深い壁は家族との関係性です。相続・事業承継の話は、たとえ親子兄弟であっても、どこか切り出しにくいデリケートな空気をまとっています。「本音で話せば、かえって関係がギクシャクしてしまうのではないか」「よかれと思って進めた対策が、子どもたちの不満を生むのではないか」そんな懸念から誰にも相談できず、たった一人で悩んでいる資産家・経営者の方も少なくないでしょう。今回は、一つの事例をご紹介したいと思います。

財産の全体像をどう把握するか

「会社と個人の財産が混在し、全体像がわからない。」
「息子達に公平に財産を分けたいが、配分に頭を悩ませている。」
一代で財を築いたものの、資産の全体像が見えないという苦悩をかかえていた社長の例を見てみましょう。

事例概要

創業者：鈴木茂雄（62歳）
事業：食品卸売業、グループ資産評価額 約70億円
家族：妻・長男（専務）・次男（別事業）
課題：会社と個人の資産が複雑に混在、
公平な財産分割が困難

課題の整理（3つのポイント）

納税資金の不足	相続税試算額 約15億円
公平な分割の難しさ	資産の大半が分けにくい 株式・不動産
非効率な資産構成	収益性の低い不動産が負担に

当社がご提案した解決の方向性

- ▶財産の全体像を「見える化」する（財産ポートフォリオ）
- ▶納税資金の確保策を検討（資産組み換え・生命保険等）
- ▶分割しやすい資産構成に再編
- ▶家族で共通認識を持つための情報の可視化

ご紹介した事例は、決して特別な事例ではありません。現実世界で多くの資産家や経営者が直面している課題の1つです。承継という課題は、先延ばしにすればするほど選択肢が狭まります。ご自身が「まだ先のこと」と思っている間に、社会の変化や健康上の予期せぬ事態などにより、複雑で難解な課題に変わっていくからです。そして、承継が厄介なのは、自分1人では本質的な問題に気づきにくく、家族や親しい人にもその悩みを打ち明けられないことです。

だからこそ、本質的な問い合わせを投げかけてくれる承継の案内人が助けになります。ただ単に専門知識を提供するだけではなく、全体を俯瞰し、あなた自身が答えを見つけるまで寄り添う存在。当社のコンサルタントが、お客様にとってそのような存在であれば嬉しく思います。

なお、本日ご紹介した事例を含め、相続・事業承継で最善の選択をするために必要な知識や考え方をストーリー形式でわかりやすく学べる書籍を発刊いたしました。

もしご興味がある方がいらっしゃれば、手にとっていただければ幸いです。

新書籍のご紹介

社長、その決断が会社と家族の未来を変えます ——ストーリーで学ぶ相続と事業承継——

ストーリー形式で進行する本書には、相続・事業承継後の未来を映し出すことができる不思議な案内人が登場します。それぞれ異なる悩みを抱えた7人の主人公は、案内人との対話を通して、それまでの固定観念や思い込みから少しずつ解放されていきます。バラバラに見えていた会社の財産と個人の財産を一枚絵にして見ることで初めて財産の全体像を知る経営者、老舗旅館を誰に継がせるべきか、暗中模索だった状態から抜け出し、いくつもの選択肢を見つけていく4代目社長など、問題の本質に気づき、前を向いて一步踏み出す主人公の姿を通して、最善の選択をするために必要な知識と考え方を学べる内容になっています。「相続なんて、まだまだ先の話」「自分は万全の対策をしているから大丈夫」と思っている方にこそ読んでいただきたい一冊です。

詳細はこちら▶



本書の内容

- 第1章 承継の準備を始めるタイミング
- 第2章 財産の全体像をどう把握するか
- 第3章 誰に託すかではなく、どの未来を選ぶか
- 第4章 「自社株」と「想い」の承継
- 第5章 事業の分離と経営権の集約
- 第6章 予期せぬ事態への備え
- 第7章 一族の見えない財産を引き継ぐ



Amazonで
好評発売中



出版社:株式会社クロスメディア・パブリッシング
発売日:2025年11月28日 價格:1,980円(税込)



第10回「心」と「体」の健康オンラインセミナーを開催



青山財産ネットワークスは、人生100年時代を幸せに過ごすために、“財産”面での支援に注力すると同時に、“心と体”的な健康も大切であると考え、「心」と「体」の健康オンラインセミナーを開催しています。昨年11月、認知症分野の第一人者であり、メディアや学会でも広く知られる波田野先生をお迎えし、認知症の原因、認知症を発症した人への対応、予防策などについてお話しいただきました。今回は、セミナーの一部を抜粋してお届けいたします。

認知症の原因と症状

認知症を引き起こす原因是神経変性疾患や脳血管障害など数多くあります。その中でも最も多いのが、神経変性疾患である「アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病」です。

認知症を理解するためには、以下の2点を理解し、考える必要があります。

・「病気が起こっている脳の場所と症状との関連」・「病気が起こっている細胞内の異常と病気の関連」

脳は、感覚器(音、美味しさ、痛み、綺麗なものが見える)から情報を集め、やりたい(やるべき)ことを判断し、筋肉を使って表現します。脳の中心溝から前が「運動」を、後ろが「感覚」をつかさどります。アルツハイマー型認知症では、中心溝より後ろに病変が見られます。特に、中心溝より後ろにある海馬の萎縮により、記憶障害を引き起こします。言われたことを覚えられなくなり、「時間」→「場所」→「人物」の順に、見当識障害が発生します。頭頂葉の障害では、「自分がどこにいるのか分からない」といった状態を招きます。この他にも、認知症を発症した人への対応、治療法、予防策など、わかりやすく解説いただいております。講演の詳しい内容は、セミナーレポートまたはセミナー動画をご覧ください。



【講演内容】

認知症を理解する～患者さんとともに歩む診療をめざして～

順天堂大学医学部附属
順天堂医院脳神経内科 主任教授
波田野 琢氏

【第1部】講演／認知症を理解する 他

【第2部】質疑応答



セミナーレポート

セミナー動画

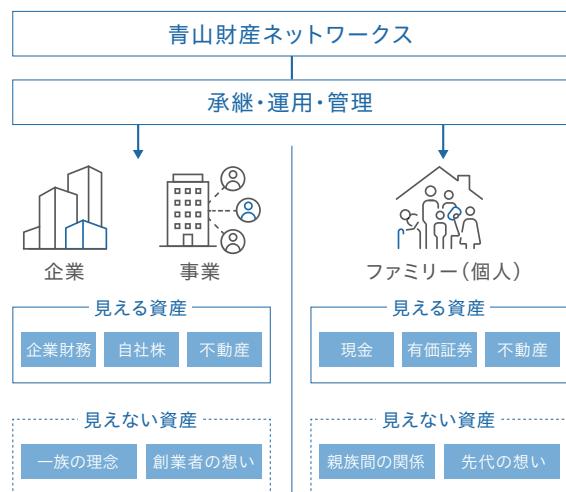


青山財産ネットワークス コンサルティングについて

企業とファミリーの財産コンサルティング

企業財務とファミリー(個人)の財産は、一緒に考える時代へ。

企業を経営をされている企業オーナーや不動産賃貸業をされている土地持ち資産家のお客様の財産には「見える資産」と「見えない資産」があります。青山財産ネットワークスは、2つの資産を「企業」と「ファミリー(個人)」双方の視点で考えるとともに、次々世代までお客様の資産形成に伴走する、“100年財産コンサルティング”をご提供いたします。現状の分析・見直しをされたい方、サービスについて詳しく知りたい方は、お気軽に当社コンサルタントへご相談ください。



「財産」のことなら青山財産ネットワークス



株式会社 青山財産ネットワークス
Aoyama Zaisan Networks Company,Limited

青山財産ネットワークスグループ

株式会社 日本資産総研

■ご意見、ご感想、お問い合わせなどございましたらこちらまで

青山財産レポート事務局

azn-pr@azn.co.jp

以降の青山財産レポートの郵送に関して、
ご不要な方は、こちらのフォームより
お願いいたします。

郵送停止
フォーム

